

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 伊予市立北山崎小学校 】

1 実践テーマ	I・II III ・IV・V（複数選択可） 心のバリアフリーを広げよう
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 27名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	障がいがある人と積極的に関わりをもち、スポーツや対話を通していろいろな立場の方とよりよい関係を築くための方法をまとめ、学んだことを今後の自分の生活に生かすことができる。
5 取組内容	(1) 体験学習 児童が初めて障がいがある人に出会い、これからの学習の方向を決める場として、日本財団パラリンピックサポートセンター主催のあすチャレ！スクールを実施した。あすチャレ！スクールはパラアスリートとともにスポーツを体験し、講話を聞く中で、その人の思いや願い、苦しみや楽しみについて知るとともに、障がいについて理解し、誰もが夢と希望をもっていきいきと過ごせる社会を創ることを学習目標とした体験学習である。 今回は車椅子バスケットボール元日本代表キャプテンの根木慎志さんを招いて学習会を開いた。児童は、車椅子バスケットボールを見学したり、競技用車椅子を使ったリレーを体験したり、講師の人から、障がいや今までの経験についての話を聞いたりして、今後の学習の目標を見い出していった。
	
	【車椅子リレー】 【車椅子バスケットの演示】 【講話の様子】

「あすチャレ!」宣言シート

4年 | 宣言

「あすチャレ!スクール」で感じたこと・学んだことを書いてみよう

わたしはネジの車イスが楽をうけていいことをたくさん知りました。一番大事なことは、ネジの小学四年生のときはこの話をきいてすごいいいと思いました。苦手なこともできるようにしようと自信がきました。車イスリレーも、みんなと協力してできて、とても楽しかったです。ネジとも友達になってまた友達がふえてうれしかったです。またネジが北山南小学校に来てくれたらいいです。

自分にとっての明日へのチャレンジ(あすチャレ!)を宣言してみよう

選手です。6年生の以上大会やこれからのいろいろな大会で1位をとれるようにしたいです。



Challenge For Tomorrow

「あすチャレ!」宣言シート

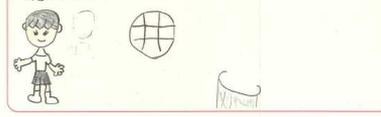
4年 | 宣言

「あすチャレ!スクール」で感じたこと・学んだことを書いてみよう

あすチャレで学べた事は、友達でも友達じゃなくてもやさしく声をかけてあげて「大はうぶ?」「目かけるよ」と言い人をだれでもやさしく声をかけて助ける人に、わたしはなりたいです。

自分にとっての明日へのチャレンジ(あすチャレ!)を宣言してみよう

わたしはお仲間さんが習っていたバレーにチャレンジしてみたいです。



Challenge For Tomorrow

【 学 習 シ ー ト 】

(2) 学習課題

元気いっぱい笑顔で語る車椅子バスケットボールの講師の様子や誰に対しても優しく語りかける様子、子ども時代の友達から支えられて成長した経験や車椅子で生活するようになってからの気持ちの変化を聞いて、次のような前向きな課題を考えた。

- 障がいのある人の元気で優しさの秘密を見つけよう。
- 心のバリアフリーに必要なことを見つけよう。

2 ボランティア・専門家学習会【学び】

(1) 車椅子体験

伊予市社会福祉協議会ボランティアセンターの方を招いて、車椅子の体験学習を行った。

グループで車椅子に乗る体験と車椅子を押す介助の体験を交代で行った。体育館に低い段差のコースを作って、それを乗り越える体験をしてから、スロープや屋外のコースを進む体験をして、障がいのある人、介助する人、それぞれの立場で車椅子の生活について考えることができた。

体験が終わった後、体が不自由な人の生活や思いについて、ボランティアセンターの講師の先生から詳しく調べることができた。その際には、困っていることや気をつけていることだけではなく、頑張っていることや趣味、楽しみにしていることなど、よい面も調べようと質問をしていた。



【車椅子の使い方】



【グループで体験】



【屋外コース】

(2) 手話学習会

耳が不自由な人との交流会に向けて、手話ボランティアの方を招いて学習会を開いた。耳が不自由な人と接するとき気をつけることや交流会で使う手話を教わり、進んでコミュニケーションできるようにした。

手話ができないときの会話の仕方や町で見かけたときの声の掛け方など、生活の中で使えるボランティアの技術も学ぶことができた。



【ボランティアの仕方】

2 耳が不自由な人について知ってほしいこと。

このマークがある車は、目の不自由な人
こまっていたらかたポン！（おこしく）

3 手話教室

(1) 分かったこと

口と手話を使えば相手に伝わる!?ということがわ
かりました。
あいさつは、顔をこまることがわかりました。

【児童のワークシート】

(3) 点字・視覚障がい者介助体験学習

目が不自由な人との交流会に向けて、愛媛県視聴覚福祉センターの職員を招いて、点字教室と視覚障がい者介助体験を行った。

点字の基本的な決まりを教わったり、点字で名刺を作ったりした。それと平行して、介助体験学習にも取り組んだ。



【点字教室】



【介助体験学習】

3 障がいのある人との交流会【関わり】

(1) 耳の不自由な人との交流会

伊予市在住の耳の不自由な方とボランティアの方を招いて交流会を実施した。活動内容は児童が話し合って決定した。

司会やゲームの進行はすべて手話を使って行い、コミュニケーションの大切さを実感することができた。

あすチャレ！スクールでパラスポーツを学習した経験を生かして、ハンカチ落としや風船バレーなどアクティブな遊び、スポーツを生かした活動を計画し、互いに楽しむことができ、生活の中で障がいのある人を介助したり、ボランティアをしたりする対象と見るのではなく、共通の趣味や運動を通して、共に活動する仲間として捉える見方が育っている。



【手話で説明】



【児童の司会進行】



【風船バレー】

プログラム

- 一、 かんげいの言葉。
- 二、 交流する方のしょうかい
- 三、 クラスの出し物
 - ① ダンス「紅蓮華」
 - ② クイズ
- 四、 各グループの出し物
 - ① フルーツバスケット
 - ② ハンカチ落とし
 - ③ 風船パレー
 - ④ ジェスチャーゲーム
- 五、 質問タイム
- 六、 お礼
- 七、 終わりの言葉

【活動プログラム】



私は交流会で楽しかったことは、みんなとゲームをしたことと、いろいろな種類のゲームがとても楽しかったです。勉強になったことは、田さんは話すときに手話をしてくれたらうれしいことと、音のまじって手話が伝わったかどうか分かることです。ゲームもクイズもダンスも全てとても楽しかったし勉強になりました。

【交流会ワークシート】

(2) 目の不自由な方との交流会

伊予市内に住む目の不自由な方と愛媛県視聴覚福祉センター介助職員の方を招いて交流会を行った。

目が不自由な方と楽しく交流するためにはどのような活動を行えば良いのか、児童も悩みながら工夫して活動した。

ここでも、パラリンピックの学習で学んだ、障がい者スポーツの考え方、アイマスクを使ったドッジボールに挑戦し、目が不自由な人に好評だった。



【点字の名刺】



【伝言ゲーム】



【案内の様子】



いろいろ教えてもらったよ

ふじ岡さんはとてもやさしく楽しい人でした。お台の言葉をきくととてもうれしかったです。箱の中身は何?のわたしのグループの問題や音あてゲームを楽しくしてもらえてよかったです。

家にあるやくに立つ道具は「アレカ」などいろいろな事を教えてくれました。運動かやスポーツ、自転車に乗ったり水泳は船と意外なところを知りました。

【交流会ワークシート】

プログラム

- 一、 かんげいの言葉。
- 二、 交流する方のしょうかい
- 三、 クラスの出し物
 - ① 歌「旅立ち」
 - ② 箱の中身は何でしょうクイズ
- 四、 各グループの出し物
 - ① 4年生クイズ
 - ② 音あてクイズ
 - ③ 目かくしころがしドッジボール
 - ④ 伝言ゲーム
- 五、 質問タイム
- 六、 お礼
- 七、 終わりの言葉

【活動プログラム】

4 情報交換・レポートづくり【まとめ】

(1) ピラミッドランキング

交流会や学習会を通して1人1人が見付けた、元気や優しさの秘密と心のバリアフリーのために気をつけることについて、情報交換を行った。その際にピラミッドランキングの手法を取り入れた。まず、1人が見付けたことを付箋に書き、5ます・3ます・1ますのピラミッドワークシートの一番下に貼っていく。それを

グループで理由を付け加えて紹介した後、話し合って上の段に5つ上げる。その中から大切なものを3つ上げ、さらに1つに絞って、一番大事な項目を決めていった。

さらに、グループの結果を全員に知らせてまとめる中で、様々な考えを広めた。



【グループでの話し合い】



【元気の秘密のランキング】



【学級全体のまとめ】

(2) レポートづくり

最後に1人1人が調べたことをレポートにまとめる活動を行った。



【児童がまとめたレポート】

6 主な成果

- 障がいのある人は安全面等の理由のためスポーツをしないと先入観が児童あった。しかし、パラスポーツの体験をしたり、調べたりする中で、そのような固定観念を払拭することができた。
- パラスポーツの選手の話聞くことにより、パラスポーツの観戦に興味をもったり、パラスポーツで頑張っている人を応援したり、パラスポーツをいっしょにしようとしたりするなど、興味・関心が高まるとともに、心の垣根を取り除いて共生社会をつくらうとする気持ちが育ってきた。
- 障害のある人を介助の対象として見たり、マイナス面ばかり気にして避けたるする気持ちをなくし、様々な面で頑張っている素晴らしい人として尊敬の気持ちをもって接しようとする気持ちが育ってきた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書、インターネットの調べ学習に頼るのではなく、障がいがある人やボランティア・福祉施設等の人と実際に関わる体験活動を重視して取り組んだ。 ○ 障がいがある人に対し、介助や手助けが必要な人という認識ではなく、スポーツや趣味を通して生活を楽しんでいるという視点から関わりを深めることができた。 ○ 生活の中で障がいがある人に進んで関わり、共に活動しようという意識が芽生える学習になるよう工夫した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラスポーツの体験者を講師に招いて学習会を開くと本学習が効果的である。しかし、講師探しやその費用面で困難がある。 ○ 障がいがある人と交流する際に、移動等安全面での配慮が必要である。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あすチャレ！スクール（パラスポーツ体験活動）の代わりに県内のパラスポーツ経験者を講師として迎えたり、ボッチャ等のパラスポーツを体験したりして導入の活動を行いたい。 ○ 障がいがある人との交流活動は今後もこの活動と同じ内容で取り組んでいきたい。